

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成31年3月28日
【事業年度】	第48期（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）
【会社名】	協立エアテック株式会社
【英訳名】	KYORITSU AIR TECH INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 久野 幸男
【本店の所在の場所】	福岡県糟屋郡篠栗町大字和田1034番地の4
【電話番号】	092(947)6101
【事務連絡者氏名】	経理部 次長 星野 辰夫
【最寄りの連絡場所】	福岡県糟屋郡篠栗町大字和田1034番地の4
【電話番号】	092(947)6101
【事務連絡者氏名】	経理部 次長 星野 辰夫
【縦覧に供する場所】	協立エアテック株式会社 東京支店 （東京都江戸川区松江7丁目6番9号） 協立エアテック株式会社 名古屋支店 （愛知県弥富市鮫ヶ地3丁目73番地1） 協立エアテック株式会社 大阪支店 （大阪府東大阪市高井田27番2号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高 (千円)	8,078,763	8,879,991	8,292,660	8,827,332	10,268,146
経常利益 (千円)	542,909	739,659	605,737	713,743	917,051
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	285,967	626,790	437,927	469,437	638,732
包括利益 (千円)	346,042	588,578	359,857	564,639	590,554
純資産額 (千円)	4,347,564	4,740,298	5,004,947	5,474,308	5,975,878
総資産額 (千円)	9,299,075	9,720,300	10,046,827	10,746,286	11,894,130
1株当たり純資産額 (円)	813.01	995.77	1,051.37	1,149.99	1,253.33
1株当たり当期純利益 (円)	54.00	129.67	91.99	98.61	134.04
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.3	48.8	49.8	50.9	50.2
自己資本利益率 (%)	6.8	13.9	9.0	9.0	11.2
株価収益率 (倍)	9.5	6.4	6.5	7.6	4.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	524,239	597,481	1,105,773	364,255	814,801
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	193,646	3,199	931,680	501,198	109,708
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	29,944	129,592	10,568	108,098	158,050
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,942,460	2,358,247	2,512,828	2,271,417	2,809,323
従業員数 (人)	347	339	346	338	345

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 平均臨時雇用者数は従業員数の10%未満のため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高 (千円)	8,050,145	8,726,925	8,122,498	8,681,550	10,217,598
経常利益 (千円)	563,338	717,541	568,848	690,168	924,012
当期純利益 (千円)	301,089	607,488	410,092	452,790	646,484
資本金 (千円)	1,683,378	1,683,378	1,683,378	1,683,378	1,683,378
発行済株式総数 (株)	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
純資産額 (千円)	4,388,791	4,840,647	5,145,709	5,555,506	6,075,873
総資産額 (千円)	9,144,994	9,594,294	9,900,152	10,562,788	11,758,246
1株当たり純資産額 (円)	828.74	1,016.85	1,080.93	1,167.04	1,274.30
1株当たり配当額 (円)	19.90	20.00	20.00	20.00	30.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	56.86	125.68	86.15	95.12	135.66
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.0	50.5	52.0	52.6	51.7
自己資本利益率 (%)	7.1	12.6	8.2	8.2	11.1
株価収益率 (倍)	9.0	6.6	6.9	7.9	4.8
配当性向 (%)	35.0	15.9	23.2	21.0	22.1
従業員数 (人)	328	320	328	320	327

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 平均臨時雇用者数は従業員数の10%未満のため記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
昭和46年2月	企業体制の整備と事業の発展のため、個人経営から株式会社組織に改め、福岡市八田町8番地に株式会社協立工業所(資本金3,000千円)を設立し、空調設備関連機材及び鉄鋼2次製品の設計・製作を開始。
昭和48年6月	協立産業株式会社を設立。
昭和50年12月	商号を株式会社協立に変更。
昭和51年11月	福岡県糟屋郡篠栗町大字和田1034番地の4(現在地)に本社・工場を全面的に移転。
昭和53年4月	東京営業所を開設。
昭和54年7月	福岡営業所を開設。
昭和55年5月	大阪営業所を開設。
昭和59年11月	本社の隣接地に第2工場及び試験研究棟を建設。
昭和60年10月	吹出口の製造販売を目的として、本社に隣接する工場を第3工場として取得。
昭和62年1月	吹出口の製造を開始。
平成元年4月	本社事務棟を建設。
平成2年1月	商号を協立エアテック株式会社に変更し、同時に会社マークも変更。
平成2年1月	東京営業所、大阪営業所をそれぞれ支店に昇格。
平成2年3月	ファンコイルユニットの製造を目的とした第4工場を本社隣接地に建設。
平成4年1月	株式の額面金額10,000円を50円に変更するため、協立産業株式会社(形式上の存続会社)と合併。
平成4年4月	研究・開発体制の強化と試験設備の充実を図るため、技術研究所を第4工場敷地内に建設。
平成5年1月	空調ユニットシステムを開発し商品名「FASU」として製造販売を開始。
平成5年6月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
平成9年9月	名古屋事務所を開設。
平成10年11月	鹿児島事務所を開設。
平成11年5月	仙台事務所を開設。
平成12年1月	株式会社トーキンが連結子会社となる。
平成13年4月	福岡営業所を九州支店として昇格。
平成13年6月	広島事務所を開設。
平成15年7月	24時間住宅用換気システムを開発し、製造販売を開始。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成17年8月	常熟快風空調有限公司(中華人民共和国江蘇省常熟市)を設立。
平成18年8月	ISO9001の認証取得。
平成20年6月	丸光産業株式会社が連結子会社となる。
平成22年4月	証券市場の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に上場。
平成22年10月	証券市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場。
平成22年12月	自己株式の消却により発行済株式総数が6,000,000株となる。
平成24年12月	群馬県伊勢崎市に関東工場を新設。
平成25年1月	連結子会社の株式会社トーキンを吸収合併し、名古屋事務所を名古屋支店として昇格。
平成25年7月	市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場。
平成25年9月	販売子会社の株式会社マスクを設立。
平成29年2月	新名古屋工場及び新名古屋支店の用地を弥富市鮫ヶ地に取得・建設し営業を開始。

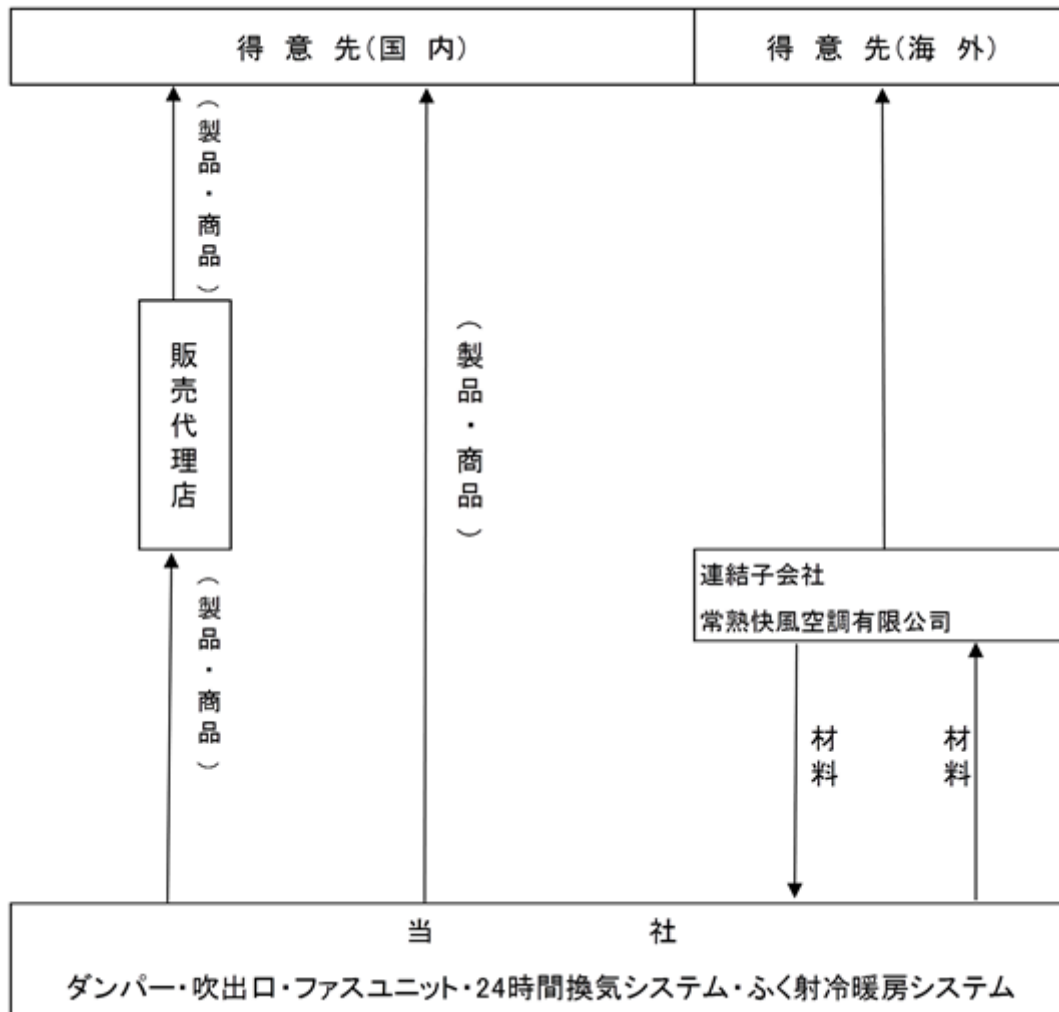
3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び関係会社5社（連結子会社1社・非連結子会社4社）により構成され、ビル空調、防災関連機器住宅向け24時間換気システムの製造販売を主な内容とした以下の事業活動を展開しております。

- (1) 当社はビル空調・防災関連機器であるダンパー・吹出口・ファスユニット並びに住宅向けの全館空調システム・24時間換気システムの製造販売を主な事業内容としております。
- (2) 連結子会社である常熟快風空調有限公司（中国）は、吹出口及びVAV・ファスユニットの製造販売を主な事業内容としております。

なお、当社グループは、空調・防災関連機器の製造販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
常熟快風空調有限公司	中国江蘇省	US \$ 711,000	空調設備機器の製造販売並びにアフターサービス	100.0	当社製品を製造、販売している。 役員の兼任6名(うち当社従業員3名)

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年12月31日現在

事業部門	従業員数(人)
製造部門	182
技術部門	32
営業部門	112
一般管理部門	19
合計	345

- (注) 1. 従業員は就業人員であります。
2. 平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しております。
3. 当社グループは、空調・防災関連機器の製造販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 提出会社の状況

平成30年12月31日現在

従業員数(人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
327	41.4	15.9	5,137

- (注) 1. 従業員は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であります。
2. 平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しております。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

1. 経営方針

当社グループは「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類・社会の進歩発展に貢献すること」を経営の基本理念として掲げ「常にお客様を第一に考え、品質の満足のいく製品づくりを通じ、人にやさしい空気調和のシステムづくりに貢献すること」を基本方針としております。

2. 目標とする経営指標

当社グループは、売上高、営業利益、売上高営業利益率を重視する経営管理を行っております。

3. 中期的な会社の経営戦略

当社グループは、独自の全館空調システム及び住宅用空調換気システム「Kankimaru」並びにふく射冷暖房システム「クール暖」の販売体制の充実を図り、主力製品のダンパー・吹出口と空調ユニットシステム、低炭素エコ素材「ル・エコ」や業務用厨房フード「ハイ・フード」の拡販と合わせ業績向上に邁進していく所存であります。

4. 経営環境及び対処すべき課題等

今後のわが国経済につきましては、企業収益や雇用・所得環境の景気回復が期待され、設備投資についても改善が見込まれますが、消費税増税や米中貿易摩擦による経済的な影響、為替相場や原油価格の動向による原材料費の上昇など懸念材料もあり、先行きは依然として不透明な状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、経営環境や経営課題の変化に柔軟に対応できるよう経営の質を充実させ、競争力と収益力を強化し、業績向上に邁進していく所存であります。

そのための対処として、グループ経営力の強化、海外事業戦略の拡充、代理店販売店網の拡充と、当社の基幹製品のダンパー・吹出口生産において作業工数削減3.5工数（全工場）を目標に掲げるとともに、ISOの活動を通して“品質を作り込む”製品づくりに取り組んでまいります。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の概況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項については、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在（平成30年12月31日）において当社グループが判断したものであります。

(1) 経済情勢・需要変動等に係るリスク

当社グループの製品需要は国内の経済情勢及び景気動向の影響を受けます。特に主要製品のダンパー及び吹出口は設備投資向けであるため、建設需要の動向、企業の設備投資動向の程度、並びに同業者間による受注獲得のための単価下落によって業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 売掛債権等の貸倒れリスク

当社グループは取引先の財務状態に応じた与信設定を行い、信用の状態を継続的に把握するなど、不良債権の発生防止に努めておりますが、取引先の売上等の動向によっては、売掛債権等の貸倒れのリスクが高まる可能性があり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 原材料輸入価格及び為替相場の変動リスク

当社グループの主要製品のうち吹出口の主材料はアルミであるため、アルミの国際相場の変動により仕入価格が変動する場合に業績に影響を及ぼす可能性があります。これらの仕入価格の高騰を回避するため海外調達を実施しておりますが、外貨建ての取引のため為替相場の変動により、損益に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 海外での事業展開に係るリスク

当社グループでは海外事業展開を図っております。海外市場での事業には予期しない法律や規則の変更、経済的変更、社会的混乱等のリスクが存在するため、これらの事象が生じた場合には、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 製品の品質

当社グループでは製品に欠陥が生じないよう品質基準書をはじめとする品質の標準を定め生産を行っております。また、欠陥による損害賠償等が発生した場合に備え、生産物賠償責任保険に加入し業績への影響を最小限に抑える手段を講じております。しかし製品の欠陥によるクレームに対処すべく製品保証、補修工事などが発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀による金融政策などを背景に企業収益や雇用環境の改善など穏やかながら回復傾向となり設備投資に持ち直しの動きがみられました。また、中国経済の減速や米中貿易摩擦の激化、米国の保護主義的な政策などで経済全体の先行きについては不透明な状況で推移しました。

当社グループが関連いたします建設市場におきましては、復興関連事業や2020年の東京オリンピック・パラリンピックの建設需要で公共投資及び民間設備投資は堅調に推移しておりますが、労務費や材料費などの高騰の影響で、受注環境は厳しい状況で推移しました。

また、住宅投資につきましては、金融緩和や政府による各種施策などの対策が継続的に行われ、住宅ローンも引き続き低金利の状況で住宅取得環境は良好な状況が続いておりますが、新設住宅着工戸数は全体として減少傾向で推移しました。

このような経営環境のもと当社グループは、当初売上目標達成と利益確保を最重要課題とした受注活動に取り組んでまいりました。

ビル設備部門におきましては、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて首都圏に於いて都市再開発案件やリニューアル案件、生産設備への投資など増加傾向が続いておりますが、価格競争の激化もあり厳しい受注環境のなか、当社の主力製品であるダンパー・吹出口・VAVを含むシステム機器の販売を重点に営業活動を行ってまいりました。

一方で住宅設備部門の当社独自の全館空調システム、住宅用空調換気システム「Kankimaru」、ふく射冷暖房システム「クール暖」、IH調理器専用排気システム「スリムハイキ」では、新規住宅着工戸数が減少傾向で推移するなか既存顧客を中心とした受注の確保や1件当たりの受注金額の増額を行い、前連結会計年度に比べ売上高が8億39百万円の増加となりました。

グループ全体では当連結会計年度の売上高は102億68百万円（前連結会計年度比16.3%増）となりました。

売上高を主な製品別で見ますと、ビル設備部門のダンパー34億14百万円（前連結会計年度比2.4%増）、吹出口24億66百万円（前連結会計年度比15.1%増）、ファスユニット1億9百万円（前連結会計年度比56.1%増）、住宅設備部門の全館空調システム・24時間換気システムなど29億5百万円（前連結会計年度比40.7%増）となりました。

一方利益面におきましては、不採算案件の見直しや高付加価値製品の販売に重点をおいた営業活動で利益の確保を行ってまいりました。また、工場原材料の海外調達による変動費の抑制、労務費や製造経費の徹底したコスト削減、作業工数低減活動により製造原価の低減に寄与したことで、最終的には売上原価率は70.7%（前連結会計年度70.2%）となりました。

販売費及び一般管理費におきましては、現在全社挙げてのコスト削減を目指して毎月经費分析をおこなうとともに経費の低減活動をおこなってまいりました。

その結果、営業利益は8億72百万円（前連結会計年度比28.6%増）、経常利益は9億17百万円（前連結会計年度比28.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は6億38百万円（前連結会計年度比36.1%増）となりました。

なお、当社グループは、空調・防災関連機器の製造販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

財政状態の状況

総資産は、前連結会計年度に比べ11億47百万円増加し、118億94百万円となりました。主として、現金及び預金、受取手形及び売掛金並びに電子記録債権の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度に比べ6億46百万円増加し、59億18百万円となりました。主として支払手形及び買掛金、未払金及び未払法人税等の増加によるものです。

純資産は、前連結会計年度に比べ5億1百万円増加し、59億75百万円となりました。主として利益剰余金の増加及び配当金の支払いによるものです。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度に比べ5億37百万円増加し28億9百万円となりました。主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の収入は前連結会計年度と比較して4億50百万円増加して8億14百万円となりました。これは、主に税金等調整前当期純利益の増加に加え、未払金、未払消費税等の増加及び仕入債務の増加及び法人税等の支払額の減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の収支は前連結会計年度5億1百万円の支出でしたが当連結会計年度は1億9百万円の支出となりました。これは主に有形固定資産の取得及び投資有価証券の取得による支出、貸付金の回収による収入によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の収支は前連結会計年度1億8百万円の支出でしたが当連結会計年度は1億58百万円の支出となりました。これは主に短期借入金の返済及び配当金の支払いによるものです。

生産、受注及び販売の実績

当社グループは、空調・防災関連機器の製造販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、生産、受注及び販売の状況につきましては、セグメント別に代えて製品・商品区分別に記載しております。

a. 生産実績

製品区分の名称	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
ビル用		
ダンパー	3,582,791	107.7
吹出口	2,483,843	111.7
ファスユニット等	83,204	165.1
小計	6,149,839	109.8
住宅用		
全館空調システム・24時間換気システム等	954,410	140.5
小計	954,410	140.5
合計	7,104,249	113.2

- (注) 1. 金額は、販売価格にて記載しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

b. 商品仕入実績

製品区分の名称	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
吹出口		
(ガラリ、パンカー、その他)	2,686,458	121.6
小計	2,686,458	121.6
合計	2,686,458	121.6

- (注) 1. 金額は、仕入価格にて記載しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

c. 受注実績

当社グループは、業務用においては受注生産方式であり、住宅用においては基本は見込み生産ですが、一部特注品については受注生産を行っております。

製品区分の名称	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
製品				
ビル用				
ダンパー	4,213,656	124.3	413,125	98.0
吹出口	3,471,174	115.6	244,609	58.0
ファスユニット等	508,625	110.4	70,660	279.5
小計	8,193,455	119.5	728,394	83.8
住宅用				
全館空調システム・24時間 換気システム等	2,905,104	140.7	-	-
小計	2,905,104	140.7	-	-
製品計	11,098,560	124.4	728,394	83.8
商品				
吹出口 (ガラリ、パンカー、その他)	1,434,385	117.9	11,380	-
商品計	1,434,385	117.9	11,380	-
合計	12,532,945	123.6	739,774	85.1

- (注) 1. 金額は、販売価格にて記載しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

d. 販売実績

製品区分の名称	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
製品		
ビル用		
ダンパー	3,414,260	102.4
吹出口	2,466,024	115.1
ファスユニット等	109,044	156.1
小計	5,989,329	108.0
住宅用		
全館空調システム・24時間換気システム等	2,905,104	140.7
小計	2,905,104	140.7
製品計	8,894,434	116.9
商品		
吹出口 (ガラリ、パンカー、その他)	1,373,712	113.0
商品計	1,373,712	113.0
合計	10,268,146	116.3

(注) 1. 金額は、販売価格にて記載しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
住友商事マシネックス(株)	1,729,481	19.6	1,721,644	16.8
株) 松家住宅	777,393	8.8	1,272,625	12.4

3. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。なお、個々の重要な会計方針及び見積りについては、「第5〔経理の状況〕〔連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項〕」に記載のとおりであります。

連結財務諸表の作成にあたり、過去の実績やその時点で入手可能な情報に基づいた合理的と考えられるさまざまな要因を考慮した見積りが含まれていますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等に関する分析

・財政状態

当連結会計年度末の財政状態につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態の状況」に記載のとおりであります。

・経営成績

当連結会計年度末の経営成績につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」に記載のとおりであります。

b. 経営成績等に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営成績等に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

c. 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループは、企業価値の長期的最大化に向け、将来の事業拡大に必要不可欠な研究開発、設備投資、運転資金など事業運営上必要な資金を安定的に確保することを基本方針としております。

当社グループの資本の財源は、主に営業活動によるキャッシュ・フローで生み出した資金を源泉とし、所要資金につきましては、自己資金及び金融機関からの借入金を基本としております。

d. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、売上高経常利益率及び株主資本利益率(ROE)を重要な経営指標として位置付けておりますが、当面は、収益性をさらに向上するために売上原価及び販売費及び一般管理費の低減により営業利益率10%を目標にし引き続きこれらの指標について、改善されるよう取り組んでまいります。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当社グループでは、新規技術開発と既存製品の改良・コストダウンを行い、受注拡大と収益性の改善に努めてまいりました。

（技術開発）

ビル用設備機器として加圧防排煙システムに用いられる特型差圧ダンパーを開発し、2018年から販売を開始しました。防火扉にも設置できる省スペース化を可能にした新製品です。

住宅設備機器としては新型全熱交換器の開発を完了し、2019年から本格的に販売を開始します。

従来品より熱交換効率をアップし、施工性、メンテナンス性を向上できる新製品です。

これらの製品により各種バリエーション対応が可能となり、今後の受注拡大が見込まれます。

（既存製品の改良・コストダウン）

ビル用設備機器としてクリップフランジ短管の共板化の改良、システム型・シンメトリー型・その他吹出口の工法改良等を行い、標準製品の改良とコストダウンを実現いたしました。

その結果、次期の見通しとして、年間で約3百万円のコストダウンが可能になりました。

研究開発活動の成果である新製品、新技術に関しては、産業財産権の取得を積極的に行い、経営資源として活用しております。当連結会計年度末の当社グループの産業財産権数は国内外で187件です。（出願済・権利有効の件数。期間満了・途中放棄は含まない。）

なお、当連結会計年度の研究開発費は42百万円となっております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資額は総額97百万円であります。その主なものは、既存設備の更新、金型等の購入であります。

なお、当社グループは、空調・防災関連機器の製造販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

2【主要な設備の状況】

平成30年12月31日現在における当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
		建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地(千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計(千円)	
本社 (福岡県糟屋郡)	会社統括	71,744	35,520	54,338 (3,570)	21,386	8,802	191,791	78
第1工場 (福岡県糟屋郡)	ダンパー製造	50,242	6,048	262,440 (8,914)	-	748	319,480	33
第2工場 (福岡県糟屋郡)	加工センター	18,258	98,308	276,065 (6,415)	-	639	393,271	18
第3工場 (福岡県糟屋郡)	ダンパー、24時間 換気システム製造	11,317	10,291	51,415 (3,378)	-	745	73,770	22
第4工場 (福岡県糟屋郡)	吹出口製造	40,898	28,927	171,825 (6,577)	-	1,836	243,488	40
名古屋工場・支店 (愛知県弥富市)	吹出口製造	607,919	57,149	541,759 (16,207)	-	948	1,207,777	32
関東工場 (群馬県伊勢崎 市)	ダンパー製造	133,199	16,828	219,030 (6,584)	-	95	369,154	10
技術研究所 (福岡県糟屋郡)	研究開発	36,205	2,302	86,675 (2,944)	-	17,705	142,889	28
東京支店他 1支店・1工場 4事務所	その他設備	39,704	1,012	210,880 (1,557)	-	2,935	254,532	66

(2) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
常熟快風空調有限公司	本社工場 (中国江蘇省)	吹出口製造 ファスユニット 製造	-	7,580	- (-)	546	8,126	18

(注) 1. 帳簿価額の「その他」は、工具、器具及び備品であります。

なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. 常熟快風空調有限公司の従業員数には、提出会社からの出向者が2名含まれております。

3【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,663,400
計	20,663,400

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年3月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,000,000	6,000,000	㈱東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 は100株であり ます。
計	6,000,000	6,000,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成22年12月1日 (注)	803	6,000	-	1,683,378	-	639,458

(注) 平成22年12月1日付の自己株式の消却により、発行済株式総数が803,980株減少しております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	8	19	24	11	1	1,862	1,925	-
所有株式数 (単元)	-	11,338	925	3,946	134	2	43,645	59,990	1,000
所有株式数の割合(%)	-	18.90	1.54	6.58	0.23	0.00	72.75	100.00	-

(注) 1. 自己株式1,231,980株は「個人その他」に12,319単元及び「単元未満株式の状況」に80株を含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」の欄には証券保管振替機構名義の株式が5単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
協立エアテック社員持株会	福岡県糟屋郡篠栗町大字和田1034-4	653	13.70
久野幸男	福岡県糟屋郡篠栗町	505	10.61
住友生命保険相互会社	東京都中央区晴海1-8-11	370	7.77
(株)西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前3-1-1	237	4.99
協立エアテック協栄会	福岡県糟屋郡篠栗町大字和田1034-4	237	4.97
(株)福岡銀行	福岡市中央区天神2-13-1	234	4.92
第一生命保険(株)	東京都中央区晴海1-8-12	158	3.32
(株)南陽	福岡市博多区博多駅前3-19-8	144	3.04
福岡商事(株)	福岡市中央区大名2丁目2-26	118	2.49
徳永研介	福岡市博多区	78	1.65
計		2,739	57.46

(注) 上記のほか、自己株式が1,231千株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己株保有株式) 普通株式 1,231,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,767,100	47,671	-
単元未満株式	普通株式 1,000	-	-
発行済株式総数	6,000,000	-	-
総株主の議決権	-	47,671	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権の数5個)含まれております。

2. 「単元未満株式」の中には、当社所有自己株式80株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 協立エアテック株式会社	福岡県糟屋郡篠栗町大字和田1034-4	1,231,900	-	1,231,900	20.53
計	-	1,231,900	-	1,231,900	20.53

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(譲渡制限付株式報酬制度による自己株式の処分)	7,700	6,221	-	-
保有自己株式数	1,231,980	-	1,231,980	-

(注)(1)当期間における保有自己株式には、平成31年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(2)当事業年度におけるその他(譲渡制限付株式報酬制度による自己株式の処分)は、平成30年5月7日に実施した取締役及び監査役(社外取締役及び社外監査役を除く。)を対象とした譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分であります。

3【配当政策】

当社は、企業価値の長期的最大化に向け、将来の事業拡大に必要な不可欠な研究開発、設備投資、運転資金など成長への投資を第一優先とし、そのための内部保留を確保し、その後の余剰資金につきましてはキャッシュ・フローも勘案の上、可能な限り株主の皆様へ還元いたします。毎年の配当につきましては、必要とする内部保留のレベルにもよりますが、安定的、継続的な還元の充実を図っていく所存であります。

毎事業年度における配当の回数については、定時株主総会にて1回もしくは中間配当を含めた2回を基本的な方針としております。期末配当の決定機関は、株主総会ですが、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を取締役会の決議によって行うことができる旨を定款で定めております。

また、当期の剰余金の配当につきましては、1株当たり普通配当20円に「売上高100億円突破記念配当」10円を加え、合計30円の配当を実施しております。

なお、当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成31年3月27日 定時株主総会決議	143,040	30.0

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
最高(円)	528	1,015	836	840	948
最低(円)	368	474	492	586	582

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	926	925	880	880	845	799
最低(円)	805	835	815	753	770	582

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 7名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役社長 (代表取締役)		久野 幸男	昭和26年7月1日生	昭和46年3月 当社入社 昭和61年1月 当社技術部長 平成2年3月 当社取締役 技術部長 平成6年3月 当社常務取締役 技術部長 平成13年2月 当社代表取締役常務 技術本部長 兼管理部長 平成13年4月 当社代表取締役社長(現任) 平成17年8月 常熟快風空調有限公司董事長(現任) 平成25年9月 株式会社マスク代表取締役社長 (現任)	2	5,059
取締役	営業統括本部 本部長	宮田 正昭	昭和28年1月30日生	平成12年1月 当社入社 平成17年6月 当社東京支店支店長 平成22年3月 当社取締役営業統括本部本部長 (現任) 平成25年9月 株式会社マスク取締役(現任) 平成28年1月 常熟快風空調有限公司董事(現任)	2	183
取締役	技術本部本部長	柿原 秀規	昭和31年6月16日生	平成23年4月 当社入社 平成23年7月 当社ES・C部部长 平成29年3月 当社取締役 技術本部本部長 (現任)	2	149
取締役		植田 正敬	昭和45年1月16日生	平成13年6月 公認会計士登録 平成19年8月 植田公認会計士事務所代表(現任) 平成24年3月 当社社外取締役(現任)	2	-
常勤監査役		松本 孝明	昭和33年10月10日生	昭和56年4月 当社入社 平成23年3月 当社監査役(現任) 平成23年5月 常熟快風空調有限公司監事(現任) 平成25年9月 株式会社マスク監査役(現任)	1	165
監査役		加藤 久	昭和29年4月29日生	平成6年3月 加藤合同国際特許事務所代表(現任) 平成13年3月 当社社外監査役(現任)	1	-
監査役		長 伸幸	昭和28年9月19日生	昭和54年9月 公認会計士登録 昭和61年7月 税理士登録 昭和62年2月 長公認会計士事務所代表(現任) 平成元年6月 株式会社財産マネジメント代表取締役 (現任) 平成14年3月 当社社外監査役(現任)	3	46
計						5,602

- (注) 1. 平成28年3月29日就任後、4年以内の最終の決算期に関する定時株主総会まで。
2. 平成30年3月28日就任後、2年以内の最終の決算期に関する定時株主総会まで。
3. 平成31年3月27日就任後、4年以内の最終の決算期に関する定時株主総会まで。
4. 取締役植田正敬は、社外取締役であります。
5. 監査役加藤久、長伸幸は、社外監査役であります。
6. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役2名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (百株)
衣目 修三	昭和24年10月26日生	昭和53年3月 公認会計士登録 昭和53年8月 衣目公認会計士事務所代表 昭和53年10月 税理士登録 平成27年6月 ゼット株式会社社外取締役就任(現任) 平成27年6月 株式会社ケーイーシー相談役就任(現任)	-
中村 茂紀	昭和31年9月11日生	昭和63年8月 当社入社 平成25年1月 当社管理本部総務部長就任 平成27年4月 当社管理本部部長就任(現任)	154

- (注) 1. 候補者と当社の間には特別の利害関係はありません。
2. 衣目修三氏は社外監査役加藤久氏、長伸幸氏の補欠の社外監査役であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

・コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、コーポレート・ガバナンスが企業を効率よく経営し、会社の経済的繁栄を最大にするための企業の規律と支配に関するものであるということを十分認識し、健全な経営に欠かすことが出来ない重要事項として考えております。

今後につきましても、業務執行に関する迅速な意思決定を持つ経営管理組織にすべく更なる充実を図っていく所存であります。

企業統治の体制

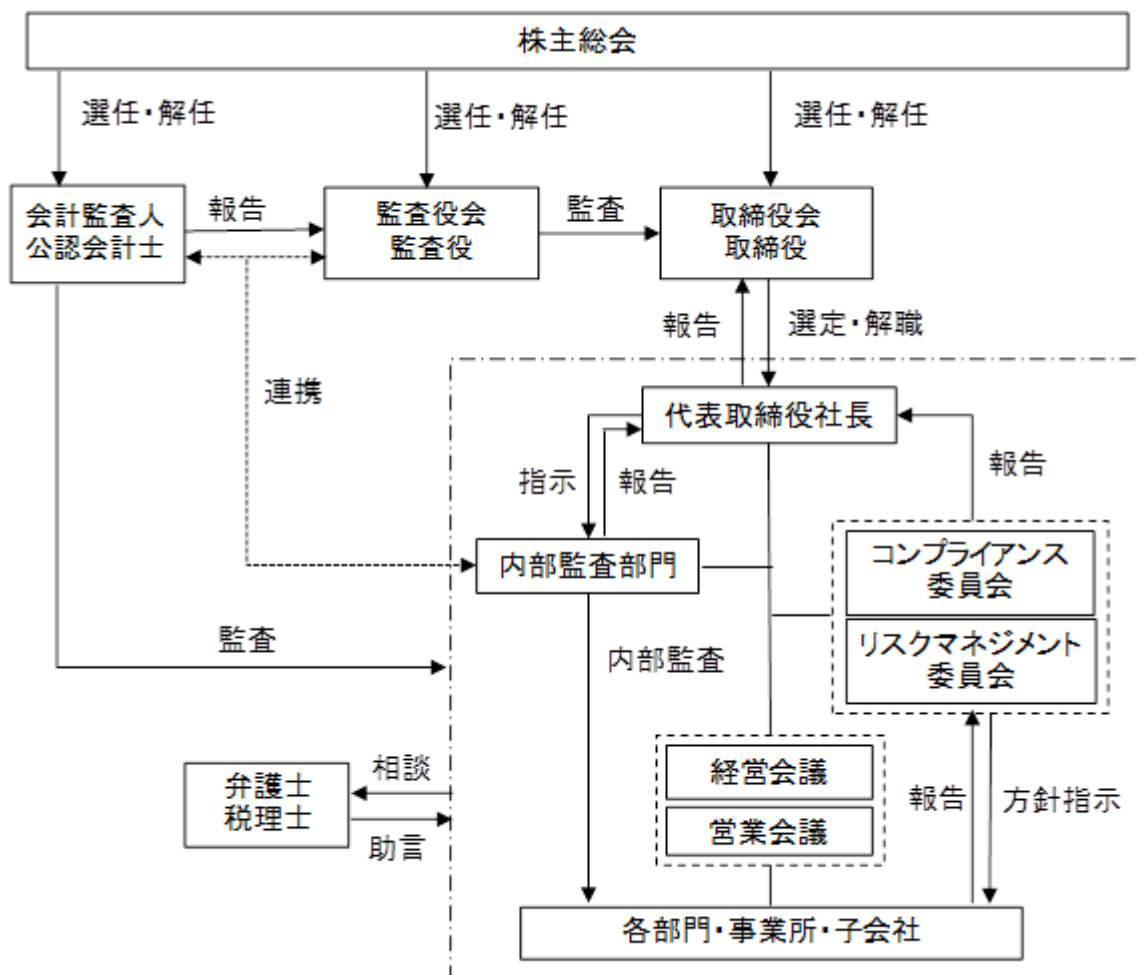
・企業統治の体制の概要

取締役会は社内取締役3名、社外取締役1名で構成されており、原則として月1回開催しております。取締役会は、法令又は定款に定める事項の他、経営の基本方針、重要な業務執行に関する意思決定・方針決定を行っております。

監査役は、取締役会に常時出席し、必要に応じて意見を述べるとともに、内部監査部門や会計監査人とも連携し、取締役の業務執行の状況を厳正にチェックしております。

監査役会は、監査役3名で構成され、取締役会等の重要な会議に出席するほか、独自に監査方針を決定し、内部監査部門や会計監査人とも連携して当社及び子会社の業務や財産の監査を行い、意見を具申しております。

当社におけるコーポレート・ガバナンスの概略図は以下のとおりであります。



・企業統治の体制を採用する理由

当社の企業統治の体制は、事業規模等を勘案したものであり、効率的かつ効果的に機能していると判断しております。

- ・内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況
平成18年5月12日の取締役会で決議された「内部統制に係る体制整備の基本方針」の概要を記載します。
 - ア．取締役の業務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・法令遵守（コンプライアンス）は経営の最重要課題と位置づけ、経営理念にその思想を謳い、諸規定に反映させ、社内徹底を図ることにより、役職員の職務執行が法令及び定款に適合するものであることを確保する。
 - ・社長室にコンプライアンス担当部署を設け、担当の取締役がこの運営にあたり、社内コンプライアンス体制の整備に努める。
 - ・取締役と監査役の意見交換を積極的に行い、役割をわきまえた上で意思の疎通を図る。
 - ・取締役は、使用人の模範となるべく自己研鑽に励み、機会を捉えコンプライアンスの意義を説いていく。
 - ・内部監査部門は、コンプライアンスの状況について監査を実施し、その結果を取締役会及び監査役会に報告する。
 - イ．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ・文書の整理保管、保存期間及び廃棄に関するルールを定めた「文書管理規程」を見直し、近時の環境に則したものに改め、社内に周知徹底を図り、適正な保存及び管理を行う。
 - ・株主総会議事録、取締役会議事録については、管理本部総務部が主管し、その他取締役の職務執行に関する議事録等の情報は、主催した本部で保存、管理するものとする。
 - ウ．損失の危機の管理に関する規程その他の体制
 - ・リスク管理は経営の重要課題と捉え、基本方針を定める。
 - ・部署ごとにリスクの洗い出しを行い、具体的な対処方法を検討・立案し、取締役会において評価し、その方策を「リスク管理規程」として収め、部署内に周知徹底することにより、リスク管理を行っていく。
 - ・内部監査部門は、リスク管理状況を監査し、その結果を取締役会及び監査役会に報告する。
 - エ．取締役会の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・取締役会は経営計画を策定し、代表取締役は取締役以下の業務担当取締役並びに役職員の業務活動を統括する。
 - ・毎月開催の取締役会の席上で、取締役による職務執行状況の報告をし、他の取締役からの質疑により緊張感を保つ。
 - オ．当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ・親会社の取締役が、子会社の主要な業務執行取締役を兼ねているので、親会社の取締役を通じ、企業集団としての業務の適正化を確保していく。
 - ・子会社の取締役は、親会社の取締役会に出席し、業務の状況について報告する。
 - ・子会社の取締役は、親会社の取締役会において、各取締役から業務の状況について報告を受け、質疑により進捗状況を確認する。
 - ・子会社の取締役は、親会社の取締役会で決定されたことは、子会社の環境に合わせて、社内徹底を図る。
 - ・子会社も適宜、親会社の監査役及び内部監査部門による監査を受ける。
 - カ．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における使用人に関する事項
 - ・監査役から要望があれば、監査室要員として延滞なく配置する。
 - キ．前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項
 - ・監査役室の要員の任命・異動・考課等処遇については、予め常勤監査役の同意を求める。
 - ク．取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役へ報告に関する体制
 - ・会社法第357条「取締役は、株式会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときは、直ちに当該事実を監査役会に報告しなければならない。」の主旨を、取締役会を通じて徹底する。
 - ・常勤監査役は取締役会ほか重要な会議に出席すること、並びに重要書類の閲覧等を通して積極的に情報を収集する。
 - ・常勤監査役は、日常的に大半の役員、使用人と会話が可能であり、このような場を通して情報の収集に努める。
 - ・常勤監査役は、社長室内部監査部門と連携を密にし、情報収集に努め、併せて監査指導にあたる。
 - ケ．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - ・取締役会における「監査役の見解・報告」の時間は、今後も確保し、積極的な監査役の発言を促す。
 - ・監査役の重要な会議、委員会への出席、主要な稟議書の回付等の制度は遵守する。

内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

内部監査部門としては内部監査室があり、定期的に当社及び子会社の業務活動の適正及び効率性の確認を行い、必要に応じ必要な改善策の作成を指示しております。内部監査室は、会計監査人とも連携して取締役の業務執行状況を厳正にチェックしております。

監査役会は常勤監査役1名、非常勤監査役2名から構成され、監査役会が定めた監査役監査基準に則り、取締役業務執行の適法性、妥当性に関して公正・客観的な立場から監査を行っております。また、取締役会には原則として監査役全員が出席しており、取締役の業務執行状況を十分に監査できる体制となっております。

なお、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する社外監査役が、監査役の監査を行うことにより業務の適正を確保しているものと考えます。

当社は、太陽有限責任監査法人より会社法及び金融商品取引法に基づく監査契約を締結し、独立した専門家の立場から、会計監査を受けております。

業務を執行した会計監査人の概要は次のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員 高木 勇
指定有限責任社員 業務執行社員 土居 一彦

会計監査業務に関わる補助者の構成

公認会計士 5名、 その他 11名

当社と同監査法人、又は当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員との間には、特別な利害関係はありません。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

当社と社外取締役との間には、人的関係、資本的关系、その他利害関係はありません。当社と社外監査役長伸幸氏との間には、平成30年12月31日現在当社普通株式を4千株所有しております。また、長伸幸氏が所属する長公認会計士事務所との間で、税務に関する業務委託契約の取引があります。当社と社外監査役加藤久氏の間には、加藤久氏が所属する加藤特許事務所と当社が申請する特許関係の手続きの取引があります。

社外取締役は、公認会計士としての専門知識と経験をもとに、当社の経営に対し有益な助言を頂いております。

社外監査役は、法務・財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、実効性の高い監査機能を果たしております。

当社は、社外取締役及び社外監査役の選任にあたり、独立性に関する基準または方針として明確に定めたものではありませんが、専門性及びその独立性などを総合的に判断し選任しております。

当社は、社外取締役を1名、社外監査役を2名選任しておりますが、社外取締役又は社外監査役はいずれも当社が期待する機能・役割を果たしているものと認識しており、現在の選任状況について問題ないと判断しております。

社外取締役は取締役会において内部監査、監査役監査及び会計監査人監査の報告を受け、必要に応じて取締役会の意思決定の適正性を確保するための助言・提言を行っております。

社外監査役は監査役会において定期的に内部監査室及び会計監査人の監査の結果並びに内部統制の運用状況についての報告を受け意見交換を行っております。

(2) 内部管理体制の整備・運用状況

内部牽制組織、組織上の業務部門及び管理部門の配置状況、社内規定の整備状況等

当社の組織は、製造部門（生産本部）、技術部門（開発事業本部）、営業部門（営業本部・住宅設備部門）、管理部門（管理本部）、経営企画室と分かれており、さらに社長直轄の独立組織として内部監査室を設置しております。この内部監査室を設置することにより、各部門間の内部牽制及び内部管理機能の強化を図るとともに、法令・社内規程の遵守状況等につき、内部監査を実施し、処理の適正化と内部牽制の有効性確保のため、具体的な助言・勧告を行っております。

なお、当社の社内規程としては組織的な牽制が十分機能するように設計された組織規程、職務分掌規程、職務権限規程等を定めております。

内部管理体制の充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況

内部管理体制の充実を図るため、内部監査室が中心となり、社内規程の見直し・業務改善の施策の実施に向け取り組んでおります。また、各部署とも常勤監査役との情報交換等を適宜に行うと共に、取締役会、監査役会等の各管理組織が円滑な業務を図れるよう業務運営に努めております。

(3) 役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	譲渡制限付 株式報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	96,966	68,400	4,060	24,506	-	4
監査役 (社外監査役を除く)	13,606	9,600	606	3,400	-	1
社外役員	6,600	6,600	-	-	-	3

(注) 当社の取締役報酬限度額は、平成20年3月27日開催の定時株主総会決議により年額300百万円以内であります。また、監査役の報酬限度額は、平成19年3月29日開催の定時株主総会決議により年額30百万円以内であります。

また、平成30年3月28日開催の当社第47回定時株主総会において、当社の取締役(社外取締役を除く)及び監査役(社外監査役を除く)(以下、総称して「対象役員」という)に当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、対象役員と株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、対象役員に対し、新たに譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決議いただいております。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、役員の報酬等の額に関する方針は定めておりませんが、取締役の報酬等の額は、株主総会の決議により承認された報酬限度額の範囲内で、取締役会にて決定しております。監査役の報酬等の額は、株主総会の決議により承認された報酬限度額の範囲内で、監査役の協議にて決定しております。

(4) 業務執行取締役等を除く取締役及び監査役との責任限定契約の内容

当社定款において、会社法第427条第1項の規定により、当社と業務執行取締役等を除く取締役及び監査役との間に、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結できる規程を設けております。当社は、当該定款規程により、社外取締役植田正敬及び社外監査役長伸幸、加藤久との間で責任限定契約を結んでおります。当該契約に基づく責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

(5) 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

(6) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨も定款に定めております。

(7) 取締役会への権限委譲の内容

当社定款において、次のように取締役会への権限委譲を定めております。

自己株式取得の決定機関

当社は自己株式の取得について、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行できるようにするためであります。

取締役の責任免除の決定機関

当社は、取締役の責任免除について、会社法第423条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役

(取締役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは取締役が期待された役割を十分発揮できるよう、取締役の責任を軽減するためであります。

監査役の責任免除の決定機関

当社は、監査役の責任免除について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは監査役が期待された役割を十分発揮できるよう、監査役の責任を軽減するためであります。

中間配当の決定機関

当社は、取締役会決議により毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

(8) 特別決議要件の変更

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的としております。

(9) 株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
11銘柄 276,893千円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株朝日工業社	8,633	30,434	取引関係等の維持・発展のため
高砂熱学工業(株)	34,268	70,764	同上
ダイダン(株)	16,097	48,614	同上
株大気社	15,927	60,681	同上
新日本空調(株)	10,239	15,297	同上
株テクノ菱和	15,300	12,867	同上
株西日本フィナンシャル ホールディングス	30,180	40,743	取引金融機関であり、安定的な取引関係を構築するため
株南陽	6,500	14,755	友好的な関係を維持するため
株高田工業所	500	390	同上
第一生命ホールディングス 株	400	929	同上
株日本アクア	50,000	24,900	同上

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株朝日工業社	8,911	29,231	取引関係等の維持・発展のため
高砂熱学工業(株)	35,140	62,866	同上
ダイダン(株)	16,292	38,580	同上
株大気社	16,267	47,616	同上
新日本空調(株)	10,482	18,847	同上
株テクノ菱和	15,300	13,020	同上
株西日本フィナンシャル ホールディングス	30,180	28,912	取引金融機関であり、安定的な取引関係を構築するため
株南陽	6,500	15,008	友好的な関係を維持するため
株高田工業所	500	274	同上
第一生命ホールディングス (株)	400	687	同上
株日本アクア	50,000	21,850	同上

保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく 報酬(千円)	非監査業務に基づく報 酬(千円)	監査証明業務に基づく 報酬(千円)	非監査業務に基づく報 酬(千円)
提出会社	17,500	-	17,500	-
連結子会社	-	-	-	-
計	17,500	-	17,500	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の財務諸表について、太陽有限責任監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加盟し、監査法人等が主催する研修への参加及び会計専門誌の定期購読等を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,271,417	2,809,323
受取手形及び売掛金	¹ 2,013,080	¹ 2,163,154
電子記録債権	¹ 1,519,921	¹ 1,820,567
商品及び製品	547,504	713,201
仕掛品	17,042	29,869
原材料及び貯蔵品	449,449	455,981
繰延税金資産	24,465	53,223
その他	82,362	95,975
貸倒引当金	5,542	5,135
流動資産合計	6,919,702	8,136,162
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	² 1,076,148	² 1,009,085
機械装置及び運搬具(純額)	² 288,158	² 263,955
土地	1,906,430	1,906,430
建設仮勘定	1,133	62,250
その他(純額)	² 81,593	² 56,390
有形固定資産合計	3,353,464	3,298,112
無形固定資産		
その他	18,676	16,228
無形固定資産合計	18,676	16,228
投資その他の資産		
投資有価証券	³ 336,377	³ 295,893
長期貸付金	6,850	-
繰延税金資産	49,156	75,237
その他	64,105	74,536
貸倒引当金	2,046	2,040
投資その他の資産合計	454,442	443,627
固定資産合計	3,826,583	3,757,968
資産合計	10,746,286	11,894,130

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 2,053,225	1 2,339,265
短期借入金	1,800,000	1,750,000
未払金	256,395	350,932
未払法人税等	123,645	240,549
賞与引当金	40,663	41,476
その他	221,312	388,512
流動負債合計	4,495,242	5,110,735
固定負債		
繰延税金負債	3,040	3,040
退職給付に係る負債	604,744	649,512
長期末払金	58,375	58,375
製品保証引当金	37,399	36,435
長期預り保証金	38,545	38,545
資産除去債務	5,449	5,488
その他	29,180	16,119
固定負債合計	776,735	807,516
負債合計	5,271,978	5,918,251
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,683,378	1,683,378
資本剰余金	1,586,811	1,590,088
利益剰余金	2,714,687	3,258,213
自己株式	510,241	507,297
株主資本合計	5,474,634	6,024,382
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	146,007	108,874
為替換算調整勘定	23,169	11,405
退職給付に係る調整累計額	169,503	168,784
その他の包括利益累計額合計	326	48,504
純資産合計	5,474,308	5,975,878
負債純資産合計	10,746,286	11,894,130

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
売上高	8,827,332	10,268,146
売上原価	6,196,495	7,261,999
売上総利益	2,630,837	3,006,147
販売費及び一般管理費	1, 2 1,952,700	1, 2 2,134,111
営業利益	678,136	872,036
営業外収益		
受取利息	822	833
受取配当金	6,486	7,945
スクラップ売却収入	16,343	16,784
助成金収入	2,766	-
受取家賃	4,944	4,944
保険解約返戻金	-	10,586
雑収入	10,582	9,937
営業外収益合計	41,946	51,031
営業外費用		
支払利息	5,648	5,794
雑損失	690	221
営業外費用合計	6,339	6,016
経常利益	713,743	917,051
特別利益		
固定資産売却益	3 185	3 384
特別利益合計	185	384
特別損失		
固定資産除却損	4 767	4 126
固定資産売却損	5 6,496	5 1,922
特別損失合計	7,264	2,049
税金等調整前当期純利益	706,664	915,387
法人税、住民税及び事業税	220,570	322,816
法人税等調整額	16,655	46,161
法人税等合計	237,226	276,655
当期純利益	469,437	638,732
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	469,437	638,732

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
当期純利益	469,437	638,732
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	52,283	37,132
為替換算調整勘定	5,011	11,764
退職給付に係る調整額	37,905	718
その他の包括利益合計	95,201	48,178
包括利益	564,639	590,554
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	564,639	590,554
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,683,378	1,586,811	2,340,457	510,172	5,100,474
当期変動額					
剰余金の配当			95,208		95,208
親会社株主に帰属する当期純利益			469,437		469,437
自己株式の取得				69	69
自己株式の処分				-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	374,229	69	374,159
当期末残高	1,683,378	1,586,811	2,714,687	510,241	5,474,634

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	93,723	18,158	207,408	95,527	5,004,947
当期変動額					
剰余金の配当					95,208
親会社株主に帰属する当期純利益					469,437
自己株式の取得					69
自己株式の処分					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	52,283	5,011	37,905	95,201	95,201
当期変動額合計	52,283	5,011	37,905	95,201	469,361
当期末残高	146,007	23,169	169,503	326	5,474,308

当連結会計年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,683,378	1,586,811	2,714,687	510,241	5,474,634
当期変動額					
剰余金の配当			95,206		95,206
親会社株主に帰属する当期純利益			638,732		638,732
自己株式の取得				-	-
自己株式の処分		3,277		2,943	6,221
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	3,277	543,526	2,943	549,747
当期末残高	1,683,378	1,590,088	3,258,213	507,297	6,024,382

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	146,007	23,169	169,503	326	5,474,308
当期変動額					
剰余金の配当					95,206
親会社株主に帰属する当期純利益					638,732
自己株式の取得					-
自己株式の処分					6,221
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	37,132	11,764	718	48,178	48,178
当期変動額合計	37,132	11,764	718	48,178	501,569
当期末残高	108,874	11,405	168,784	48,504	5,975,878

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	706,664	915,387
減価償却費	211,337	204,158
貸倒引当金の増減額(は減少)	23,188	413
製品保証引当金の増減額(は減少)	1,244	964
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	47,394	47,860
賞与引当金の増減額(は減少)	27	813
受取利息及び受取配当金	7,309	8,778
支払利息	5,648	5,794
有形固定資産売却損益(は益)	6,302	1,537
有形固定資産除却損	767	126
売上債権の増減額(は増加)	421,286	453,185
たな卸資産の増減額(は増加)	175,369	188,111
仕入債務の増減額(は減少)	376,536	289,340
未払金の増減額(は減少)	27,672	88,974
未払消費税等の増減額(は減少)	21,076	107,569
その他	29,589	23,407
小計	647,941	1,033,515
利息及び配当金の受取額	7,309	8,778
利息の支払額	5,664	5,797
法人税等の支払額	285,331	221,695
営業活動によるキャッシュ・フロー	364,255	814,801
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	484,957	97,558
有形固定資産の売却による収入	228	698
無形固定資産の取得による支出	4,060	2,274
投資有価証券の取得による支出	13,681	7,699
貸付金の回収による収入	1,250	7,259
その他	21	10,134
投資活動によるキャッシュ・フロー	501,198	109,708
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	50,000
自己株式の取得による支出	69	-
配当金の支払額	94,967	94,989
その他	13,060	13,060
財務活動によるキャッシュ・フロー	108,098	158,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,630	9,135
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	241,411	537,906
現金及び現金同等物の期首残高	2,512,828	2,271,417
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,271,417	1 2,809,323

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 1社

連結子会社の名称

常熟快風空調有限公司

(2) 非連結子会社の名称

(株)マスク

丸光産業(株)

(株)寿商

総合機販(株)

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の非連結子会社又は関連会社数 0社

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

非連結子会社 (株)マスク

丸光産業(株)

(株)寿商

総合機販(株)

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等から見て、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 事業年度に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

1 有価証券

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産

(1) 商品・製品・仕掛品・原材料

主として総平均法による原価法

(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

1 有形固定資産(リース資産を除く)

当社は定率法、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～42年

機械装置及び運搬具 2～10年

- 2 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法
なお、自社使用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
 - 3 リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- 1 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - 2 賞与引当金
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
 - 3 製品保証引当金
納入した製品の保証に対する費用の支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を引当計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理しております。
- 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により、それぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (6) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項
消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

1. 税効果会計に係る会計基準の適用指針等

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日改正 企業会計基準委員会）
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日最終改正 企業会計基準委員会）

(1) 概要

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針を企業会計基準委員会に移管するに際して、基本的にその内容を踏襲した上で、必要と考えられる以下の見直しが行われたものであります。

(会計処理の見直しを行った主な取扱い)

- ・個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱い
- ・(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱い

(2) 適用予定日

平成31年12月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

2. 収益認識に関する会計基準等

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年12月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

(表示方法の変更)

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「未払金の増減額(は減少)」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」は、「未払金の増減額(は減少)」27,672千円、「その他」29,589千円として組替えております。

(連結貸借対照表関係)

1. 連結会計年度末日満期手形等の会計処理は手形交換日をもって決済処理しております。

次のとおり連結会計年度末日満期手形及び電子記録債権が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
受取手形	50,180千円	31,317千円
電子記録債権	101,706	74,686
支払手形	327,567	320,916

2. 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
	3,286,830千円	3,455,943千円

3. 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
投資有価証券	16,000千円	19,000千円

(連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費の主要な項目及び金額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
発送配達費	489,744千円	565,068千円
役員報酬	103,049	112,506
給与	700,465	752,846
賞与引当金繰入額	17,022	17,048
退職給付費用	43,695	43,627
貸倒引当金繰入額	19,776	413

2. 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
研究開発費	18,654千円	47,622千円

3. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
機械装置及び運搬具	185千円	384千円

4. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
建物及び構築物	33千円	126千円
機械装置及び運搬具	730	0
その他	3	0

5. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
土地	6,496	-
機械装置及び運搬具	-	1,922

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	73,446千円	48,183千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	73,446	48,183
税効果額	21,162	11,051
その他有価証券評価差額金	52,283	37,132
為替換算調整勘定：		
当期発生額	5,011	11,764
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	9,888	24,857
組替調整額	30,899	27,949
税効果調整前	40,787	3,092
税効果額	2,881	2,373
退職給付に係る調整額	37,905	718
その他の包括利益合計	95,201	48,178

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	6,000,000	-	-	6,000,000
合計	6,000,000	-	-	6,000,000
自己株式				
普通株式	1,239,573	107	-	1,239,680
合計	1,239,573	107	-	1,239,680

(注) 普通株式の自己株式の増加107株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成29年3月29日 定時株主総会	普通株式	95,208	20.0	平成28年12月31日	平成29年3月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年3月28日 定時株主総会	普通株式	95,206	利益剰余金	20.0	平成29年12月31日	平成30年3月29日

当連結会計年度（自平成30年1月1日 至平成30年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	6,000,000	-	-	6,000,000
合計	6,000,000	-	-	6,000,000
自己株式				
普通株式	1,239,680	-	7,700	1,231,980
合計	1,239,680	-	7,700	1,231,980

（注）普通株式の自己株式の減少7,700株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成30年3月28日 定時株主総会	普通株式	95,206	20.0	平成29年12月31日	平成30年3月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成31年3月27日 定時株主総会	普通株式	143,040	利益剰余金	30.0	平成30年12月31日	平成31年3月28日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）	当連結会計年度 （自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）
現金及び預金勘定	2,271,417千円	2,809,323千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	2,271,417	2,809,323

2. 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

該当事項はありません。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として基幹サーバ(有形固定資産「その他」)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3 会計方針に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的余資は預金等の安全性の高い金融資産で運用し、また、必要な資金は銀行等金融機関からの借入れにより調達しております。なお、デリバティブ取引は、行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は顧客の信用リスクに晒されております。外貨建ての売掛金・買掛金は、為替の変動リスクに晒されております。また、投資有価証券は主に「其他有価証券」に分類される長期保有を目的とした株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。短期借入金は、主に運転資金の調達を目的としたものであり、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクに関しては、取引先ごとに期日管理及び残高管理を行い、定期的に異常値を把握し、その対応を行う体制をとっております。

市場リスク(金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や企業の財務状況等を把握し、また、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。短期借入金については、経理部が所管し金利動向をフォローしております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは各部署からの報告に基づき担当者が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性を一定水準維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注)2.参照)

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,271,417	2,271,417	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,013,080	2,013,080	-
(3) 電子記録債権	1,519,921	1,519,921	-
(4) 投資有価証券	320,377	320,377	-
資産計	6,124,797	6,124,797	-
(1) 支払手形及び買掛金	2,053,225	2,053,225	-
(2) 短期借入金	1,800,000	1,800,000	-
(3) 未払金	256,395	256,395	-
負債計	4,109,621	4,109,621	-

当連結会計年度（平成30年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,809,323	2,809,323	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,163,154	2,163,154	-
(3) 電子記録債権	1,820,567	1,820,567	-
(4) 投資有価証券	276,893	276,893	-
資産計	7,069,939	7,069,939	-
(1) 支払手形及び買掛金	2,339,265	2,339,265	-
(2) 短期借入金	1,750,000	1,750,000	-
(3) 未払金	350,932	350,932	-
負債計	4,440,197	4,440,197	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
非上場株式	16,000	19,000
長期未払金	58,375	58,375

非上場株式については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから上記表には含めておりません。

また、長期未払金は、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打切り支給額であります。支払時期を予測することが不可能であり将来キャッシュ・フローを見積もることなどができないことから時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記表には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,271,417	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,013,080	-	-	-
電子記録債権	1,519,921	-	-	-
合計	5,804,419	-	-	-

当連結会計年度（平成30年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,809,323	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,163,154	-	-	-
電子記録債権	1,820,567	-	-	-
合計	6,793,045	-	-	-

4. その他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
短期借入金	1,800,000	-	-	-

当連結会計年度（平成30年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
短期借入金	1,750,000	-	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	320,377	120,318	200,058
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	320,377	120,318	200,058
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		320,377	120,318	200,058

当連結会計年度（平成30年12月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	276,893	125,018	151,875
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	276,893	125,018	151,875
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		276,893	125,018	151,875

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、従業員の退職給付に充てるため、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
退職給付債務の期首残高	1,083,791千円	1,124,407千円
勤務費用	78,408	78,469
利息費用	2,384	3,148
数理計算上の差異の発生額	5,434	14,970
退職給付の支払額	45,611	41,546
退職給付債務の期末残高	1,124,407	1,179,448

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
年金資産の期首残高	485,653千円	519,662千円
期待運用収益	4,856	5,196
数理計算上の差異の発生額	15,322	9,887
事業主からの拠出額	32,075	32,065
退職給付の支払額	18,246	17,101
年金資産の期末残高	519,662	529,935

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	515,652千円	540,858千円
年金資産	519,662	529,935
	4,010	10,922
非積立型制度の退職給付債務	608,754	638,590
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	604,744	649,512
退職給付に係る負債	604,744	649,512
退職給付に係る資産	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	604,744	649,512

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
勤務費用	78,408千円	78,469千円
利息費用	2,384	3,148
期待運用収益	4,856	5,196
数理計算上の差異の費用処理額	42,332	39,383
過去勤務費用の費用処理額	11,433	11,433
確定給付制度に係る退職給付費用	106,835	104,370

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
過去勤務費用	11,433千円	11,433千円
数理計算上の差異	52,221	14,525
合計	40,787	3,092

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
未認識過去勤務費用	65,744千円	54,310千円
未認識数理計算上の差異	273,717	234,333
合計	207,973	180,023

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
債券	5%	6%
株式	9	7
一般勘定	86	87
その他	0	0
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
割引率	0.2%	0.3%
長期期待運用収益率	1.0%	1.0%

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	9,529千円	16,003千円
賞与引当金	12,483	12,608
未払金	2,452	24,611
棚卸資産評価損	4,917	4,912
貸倒引当金	2,307	2,181
繰延税金資産(小計)	31,690	60,318
評価性引当額	7,224	7,094
繰延税金資産(合計)	24,465	53,223
繰延税金資産(固定)		
長期未払金	17,746	17,746
退職給付に係る負債	193,538	193,043
有価証券評価損	17,773	17,773
貸倒引当金	68	-
減損損失	39,896	39,977
製品保証引当金	11,444	11,076
その他	4,429	4,351
繰延税金資産(小計)	284,897	285,611
評価性引当額	167,125	152,870
繰延税金資産(合計)	117,771	132,740
繰延税金負債(固定)		
資産除去債務対応資産	85	25
その他有価証券評価差額金	54,051	43,000
合併受入土地評価差額金	14,477	14,477
全面時価評価法による評価差額	3,040	3,040
繰延税金負債(合計)	71,654	60,543
繰延税金資産(固定)の純額	46,116	72,197

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
法定実効税率	30.7%	30.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.4	1.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	0.1
評価性引当額の増減	0.2	0.1
住民税均等額	1.9	1.5
税額控除	0.5	3.3
その他	0.4	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.6	30.2

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいことから、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、空調・防災関連機器の製造販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントである為、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品及びサービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高
住友商事マシネックス(株)	1,729,481

(注) 上記には、消費税等は含まれておりません。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品及びサービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高
住友商事マシネックス(株)	1,721,644
(株)松家住宅	1,272,625

(注) 上記には、消費税等は含まれておりません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前連結会計年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

開示すべき重要な取引はありません。

当連結会計年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

開示すべき重要な取引はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）	当連結会計年度 （自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）
1株当たり純資産額	1,149.99円	1,253.33円
1株当たり当期純利益	98.61円	134.04円

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2．1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）	当連結会計年度 （自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	469,437	638,732
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	469,437	638,732
期中平均株式数（株）	4,760,376	4,765,362

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,800,000	1,750,000	0.3	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	13,060	13,060	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	29,180	16,119	-	平成32年1月～平成35年1月
合計	1,842,241	1,779,180		-

(注) 1.平均利率については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2.リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため記載しておりません。

3.リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	11,098	2,713	2,307	-

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,294,187	4,684,202	7,246,713	10,268,146
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	237,501	440,818	643,842	915,387
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	160,835	292,361	420,801	638,732
1株当たり四半期(当期)純 利益(円)	33.79	61.39	88.32	134.04

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	33.79	27.60	26.93	45.72

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,131,634	2,678,514
受取手形	1, 2 611,296	1, 2 556,354
電子記録債権	1 1,519,921	1 1,820,567
売掛金	2 1,366,903	2 1,607,146
商品及び製品	542,089	710,489
仕掛品	17,015	29,806
原材料及び貯蔵品	408,603	417,203
前払費用	39,686	73,093
繰延税金資産	24,465	53,223
その他	2 40,468	2 16,561
貸倒引当金	5,542	5,135
流動資産合計	6,696,544	7,957,826
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,043,985	977,761
構築物	32,710	31,812
機械及び装置	268,125	237,704
車両運搬具	12,177	18,684
工具、器具及び備品	48,996	34,458
土地	1,910,956	1,910,956
リース資産	31,977	21,386
建設仮勘定	1,133	62,250
有形固定資産合計	3,350,062	3,295,015
無形固定資産		
施設利用権	2,747	2,137
電話加入権	3,257	3,257
その他	12,588	10,775
無形固定資産合計	18,594	16,171
投資その他の資産		
投資有価証券	320,377	276,893
関係会社株式	16,000	19,000
関係会社出資金	83,077	83,077
長期貸付金	6,850	-
繰延税金資産	10,686	39,141
その他	62,641	73,162
貸倒引当金	2,046	2,040
投資その他の資産合計	497,586	489,233
固定資産合計	3,866,243	3,800,420
資産合計	10,562,788	11,758,246

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1 1,527,587	1 1,757,477
買掛金	477,975	554,729
短期借入金	1,800,000	1,750,000
リース債務	13,060	13,060
未払金	2 255,785	2 377,375
未払費用	56,548	56,355
未払法人税等	123,645	240,549
未払消費税等	-	112,573
預り金	112,639	94,692
賞与引当金	40,663	41,476
その他	33,655	84,486
流動負債合計	4,441,559	5,082,777
固定負債		
リース債務	29,180	16,119
退職給付引当金	396,771	444,631
製品保証引当金	37,399	36,435
長期未払金	58,375	58,375
長期預り保証金	2 38,545	2 38,545
資産除去債務	5,449	5,488
固定負債合計	565,722	599,595
負債合計	5,007,282	5,682,373
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,683,378	1,683,378
資本剰余金		
資本準備金	639,458	639,458
その他資本剰余金	946,467	949,745
資本剰余金合計	1,585,925	1,589,203
利益剰余金		
利益準備金	59,010	59,010
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,555,149	3,106,427
利益剰余金合計	2,614,159	3,165,437
自己株式	473,964	471,020
株主資本合計	5,409,498	5,966,998
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	146,007	108,874
評価・換算差額等合計	146,007	108,874
純資産合計	5,555,506	6,075,873
負債純資産合計	10,562,788	11,758,246

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
売上高		
製品売上高	3 6,063,312	3 6,813,348
商品売上高	3 2,618,237	3 3,404,249
売上高合計	8,681,550	10,217,598
売上原価		
売上原価	1, 3 6,108,534	1, 3 7,241,655
売上総利益	2,573,015	2,975,943
販売費及び一般管理費	2, 3 1,916,952	2, 3 2,094,515
営業利益	656,063	881,428
営業外収益		
受取利息	87	67
受取配当金	6,486	7,945
スクラップ売却収入	15,204	15,891
保険解約返戻金	-	10,586
助成金収入	2,766	-
受取家賃	3 4,944	3 4,944
雑収入	10,582	9,132
営業外収益合計	40,072	48,567
営業外費用		
支払利息	5,648	5,794
雑損失	318	188
営業外費用合計	5,967	5,983
経常利益	690,168	924,012
特別利益		
固定資産売却益	4 185	4 384
特別利益合計	185	384
特別損失		
固定資産除却損	5 767	5 126
固定資産売却損	6 6,496	6 1,922
特別損失合計	7,264	2,049
税引前当期純利益	683,089	922,348
法人税、住民税及び事業税	213,642	322,024
法人税等調整額	16,655	46,161
法人税等合計	230,298	275,863
当期純利益	452,790	646,484

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)			当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)			
		金額(千円)		構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)	
原材料	1		2,364,984	58.4		2,935,328	61.9	
労務費			1,148,838	28.4		1,250,449	26.4	
経費								
1 外注加工費			92,769			109,097		
2 減価償却費			176,242			165,766		
3 賃借料			5,585			4,901		
4 その他			261,371	535,968	13.2	278,647	558,413	11.7
当期総製造費用				4,049,792	100.0		4,744,192	100.0
期首仕掛品たな卸高				14,835			17,015	
計				4,064,628			4,761,207	
期末仕掛品たな卸高			17,015			29,806		
当期製品製造原価			4,047,612			4,731,400		

前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
<p>1. 労務費の中には、賞与引当金繰入額23,341千円、退職給付費用62,353千円が含まれております。</p> <p>2. 原価計算の方法 期中においては個別標準原価計算を実施し、期末において原価差額を調整して実際原価に修正しております。</p>	<p>1. 労務費の中には、賞与引当金繰入額22,798千円、退職給付費用59,179千円が含まれております。</p> <p>2. 原価計算の方法 同左</p>

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,683,378	639,458	946,467	1,585,925	59,010	2,197,566	2,256,576	473,895	5,051,985
当期変動額									
剰余金の配当						95,208	95,208		95,208
当期純利益						452,790	452,790		452,790
自己株式の取得								69	69
自己株式の処分								-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	357,582	357,582	69	357,512
当期末残高	1,683,378	639,458	946,467	1,585,925	59,010	2,555,149	2,614,159	473,964	5,409,498

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	93,723	93,723	5,145,709
当期変動額			
剰余金の配当			95,208
当期純利益			452,790
自己株式の取得			69
自己株式の処分			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	52,283	52,283	52,283
当期変動額合計	52,283	52,283	409,796
当期末残高	146,007	146,007	5,555,506

当事業年度（自平成30年1月1日 至平成30年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,683,378	639,458	946,467	1,585,925	59,010	2,555,149	2,614,159	473,964	5,409,498
当期変動額									
剰余金の配当						95,206	95,206		95,206
当期純利益						646,484	646,484		646,484
自己株式の取得								-	-
自己株式の処分			3,277	3,277				2,943	6,221
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	3,277	3,277	-	551,278	551,278	2,943	557,498
当期末残高	1,683,378	639,458	949,745	1,589,203	59,010	3,106,427	3,165,437	471,020	5,966,998

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	146,007	146,007	5,555,506
当期変動額			
剰余金の配当			95,206
当期純利益			646,484
自己株式の取得			-
自己株式の処分			6,221
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	37,132	37,132	37,132
当期変動額合計	37,132	37,132	520,367
当期末残高	108,874	108,874	6,075,873

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品・製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物：2～42年

機械及び装置：10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社使用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により費用処理しております。

(4) 製品保証引当金

納入した製品の保証に対する費用の支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を引当金計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1. 期末日満期手形等の会計処理は手形交換日をもって決済処理しております。

期末日が銀行休業日のため、次のとおり期末日満期手形及び電子記録債権が期末残高に含まれておりま
す。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
受取手形	50,180千円	31,317千円
電子記録債権	101,706	74,686
支払手形	327,567	320,916

2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
短期金銭債権	84,457千円	78,898千円
短期金銭債務	3,038	4,322
長期金銭債務	2,945	5,945

(損益計算書関係)

1. 他勘定振替高及び受入高の内訳は次のとおりであります。

(製品及び商品他勘定振替高)

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
広告宣伝費への振替高	10,230千円	6,718千円
雑費への振替高	238	478
その他への振替高	1,837	596

2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度80%、当事業年度78%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度20%、当事業年度22%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
(1) 発送配達費	486,890千円	562,259千円
(2) 役員報酬	79,049	84,600
(3) 給与	538,719	541,673
(4) 賞与引当金繰入額	17,022	17,048
(5) 退職給付費用	43,695	43,627
(6) 減価償却費	32,508	28,878

3. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
売上高	161,416千円	186,879千円
仕入高	61,814	45,889
営業取引以外の取引	28,563	44,244

4. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
車両運搬具	185千円	384千円

5. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
建物	33千円	126千円
機械及び装置	74	0
その他	660	0

6. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
土地	6,496千円	- 千円
車両運搬具	-	1,922

(有価証券関係)

関係会社株式及び関係会社出資金(当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式19,000千円、関係会社出資金83,077千円、前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式16,000千円、関係会社出資金83,077千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	9,529千円	16,003千円
賞与引当金	12,483	12,608
未払金	2,452	24,611
たな卸資産評価損	4,917	4,912
貸倒引当金	2,307	2,181
繰延税金資産(小計)	31,690	60,318
評価性引当額	7,224	7,094
繰延税金資産(合計)	24,465	53,223
繰延税金資産(固定)		
長期未払金	17,746千円	17,746千円
退職給付引当金	117,828	135,168
有価証券評価損	17,773	17,773
貸倒引当金	68	-
減損損失	39,896	39,977
製品保証引当金	11,444	11,076
資産除去債務	1,749	1,643
その他	2,679	4,351
繰延税金資産(小計)	209,187	227,736
評価性引当額	129,886	131,091
繰延税金資産(合計)	79,301	96,644
繰延税金負債(固定)		
資産除去債務	85	25
合併受入土地評価差額金	14,477	14,477
その他有価証券評価差額金	54,051	43,000
繰延税金負債(合計)	68,614	57,503
繰延税金資産の純額	10,686	39,141

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
法定実効税率	30.7%	30.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.4	1.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	0.1
評価性引当額の増減	0.2	0.1
住民税均等額	1.9	1.5
税額控除	0.5	3.3
その他	0.4	0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.7	29.9

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,043,985	1,607	126	67,704	977,761	1,575,066
	構築物	32,710	3,900	-	4,798	31,812	119,798
	機械及び装置	268,125	30,212	0	60,632	237,704	908,106
	車両運搬具	12,177	19,675	2,236	10,932	18,684	41,676
	工具、器具及び備品	48,996	29,422	0	43,960	34,458	726,050
	土地	1,910,956	-	-	-	1,910,956	-
	建設仮勘定	1,133	70,313	9,196	-	62,250	-
	リース資産	31,977	-	-	10,591	21,386	32,580
	計	3,350,062	155,130	11,558	198,619	3,295,015	3,403,278
無形固定資産	施設利用権	2,747	-	-	610	2,137	-
	電話加入権	3,257	-	-	-	3,257	-
	リース資産	7,135	-	-	1,502	5,633	-
	その他無形固定資産等	5,453	2,274	-	2,584	5,142	-
	計	18,594	2,274	-	4,697	16,171	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置 第2工場 丸線立体曲げオートベンダーロボアーム 13,800千円
建設仮勘定 技術本部 倉庫新築工事 46,470千円

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

車両運搬具 東京支店 キャラバンカー 11,952千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高(千円)	当期増加額(千円)	当期減少額(千円)	当期末残高(千円)
貸倒引当金	7,589	243	656	7,176
賞与引当金	40,663	41,476	40,663	41,476
製品保証引当金	37,399	-	964	36,435

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
買取手数料	株式の売買委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によれない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告を掲載する当社のURLは次のとおりです。 http://www.kak-net.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、定款の定めによりその有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規程による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書
事業年度（第47期）（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）平成30年3月29日福岡財務支局長に提出。
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成30年3月29日福岡財務支局長に提出。
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第48期第1四半期）（自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日）平成30年5月15日福岡財務支局長に提出。
（第48期第2四半期）（自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）平成30年8月10日福岡財務支局長に提出。
（第48期第3四半期）（自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日）平成30年11月9日福岡財務支局長に提出。
- (4) 臨時報告書
平成30年4月2日福岡財務支局長に提出。
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成31年 3月28日

協立エアテック株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高木	勇	印
--------------------	-------	----	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	土居	一彦	印
--------------------	-------	----	----	---

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている協立エアテック株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、協立エアテック株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、協立エアテック株式会社の平成30年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、協立エアテック株式会社が平成30年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年3月28日

協立エアテック株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高木	勇	印
--------------------	-------	----	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	土居	一彦	印
--------------------	-------	----	----	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている協立エアテック株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第48期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、協立エアテック株式会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。